

# 花粉症の原因と治療

季節性アレルギー

性鼻炎、通称花粉症は、鼻水、くしゃみ、鼻づまり、眼のかゆみなどが症状として現れます。

その原因は、体の防衛反応が過剰に働いてしまうことです。例えば、本来なら問題のない「花粉」を体が敵と認識し、それを追い出そうとしてアレルギーの症状が出てしまします。

アレルギー治療には、マスクをしたりメガネをする、家に入る前に服から花粉をおとすといった原因の除去や食生活、



アレルギー薬の服薬があります。

規則正しい食事は基本ですが、ヨーグルトなどで腸内細菌を整えることは花粉症の予防となります。

アレルギー性鼻炎の症状がある場合は、抗ヒスタミン薬を服用し、アレルギー症状を抑えます。鼻づまりが強い場合は点鼻薬を併用します。

2017年は、昨年の約4倍、例年の約1.7倍と花粉の飛散量が多くなることとが予想されています。早めの治療と予防に心がけましょう。

(看護師

谷岡 尚子)

# 俳句

5月になると「目に

は青葉 山ほととぎす

初鯉」という俳句を思

い出されます。これは

江戸中期の俳人、山

口素堂の作品です。

「目には新緑、耳に

は山ほととぎすの声、

口には新鮮な鯉を味

わう」視覚、聴覚、味

覚で表現しリズム感

があり、新緑や山ほと

とぎすに爽やかな5月

の風を感じます。これ

らの3つは江戸の人が

好んだ物と言われ、よ

く俳句に詠まれていま

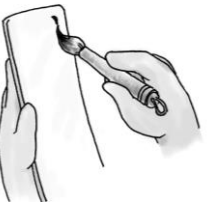
す。

初物は縁起の良い

物、食べれば寿命が7

5日延びる、また句の

走りは値段が高く、



もう少し待てば盛り

になり値段も安定す

るのに初物に手を出

すのが江戸の人の粋の

証だったとか。鎌倉で

捕れた初鯉はかなり

高価だったようで「ま

な板に小判一枚初

鯉」とか「初鯉は女房

子供を質に置いてでも

食え」と言われるほど

の人気だった様です。

(質に入れられては堪

りませんが)

俳句文学を大切に

してきた松山市には

「子規記念博物館」が

あります。高知の鯉も

有名です。今度鯉を

食べる時は十分味

わって楽しむ事にしま

しょう。

(医療事務

赤松 陽子)

# 新人スタッフ紹介

昨年の9月から勤務している隅田るかです。平成5年2月8日生まれの水瓶座です。血液型はB型です。

趣味は旅行に行く事です。最近では年末年始に九州に行きました。博多名物のもつ鍋を食べたり、湯布院に行き温泉に入ったりしました。

イベント事が好きなので年越しは門司港のカウントダウン花火を見て過ごしました。

いつかは年越しを海外で過ごしたいと思っています。

前職は飲食店で働いていました。人と接する

事が好きで以前から医療関係の仕事に興味があったので医療事務の仕事をしようと思いました。

実際に仕事をしてみると、想像以上に大変で日々勉強の毎日ではありますがそれ以上にやりがいもあります。患者様から「ありがとう。」の言葉を聞くとこの仕事をして良かったな、もっと頑張ろうと思います。

まだまだ未熟ではありますが、笑顔で患者様に接していきたいと思っていますのでこれからもよろしくお願い致します。

(医療事務 隅田 るか)



予約は  
こちらから

電話：0799-62-5566 (診療時間内)  
インターネット・携帯電話：<http://www.ukr.jp/soyama/> (24時間対応)  
\*携帯電話からは右のQRコードからでも予約できます\*

